

SONY

Sony IR Day 2015

イメージング・プロダクツ&ソリューション分野

2015年5月27日

ソニー株式会社 執行役 EVP
イメージング・プロダクツ&ソリューション事業担当

石塚 茂樹

目次

イメージング・プロダクツ&ソリューション分野

1. イメージング・プロダクツ&ソリューション分野の概要
2. 2014年度の総括
3. 2015年度の方針/見通し
4. 2015年度の重点施策
5. まとめ
6. 参考資料

イメージング・プロダクツ&ソリューション(IP&S)分野の概要

イメージング・プロダクツ&ソリューション分野

デジタルイメージング・プロダクツ事業

■ 民生用カメラ

コンパクトデジタルスチルカメラ



レンズ交換式カメラ / 交換レンズ



民生用ビデオカメラ



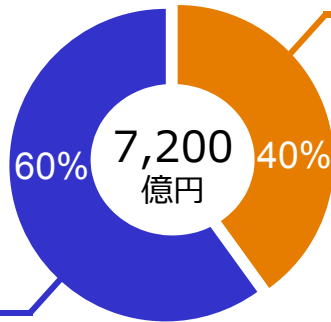
■ プロシューマ用ビデオカメラ



■ カメラブロック (監視、車載、産業用)



2014年度売上構成



プロフェッショナル・ソリューション事業

■ コンテンツクリエーション

*プロフェッショナル用ビデオカメラ含む



■ プロジェクター



■ メディカル



■ セキュリティカメラ、FeliCa



Sony IR Day 2015 | 34

2014年度の総括

イメージング・プロダクツ&ソリューション分野

売上高 7,412 (億円) → 7,200 (億円)

営業利益 263 (億円) → +284億円 → 547 (億円)

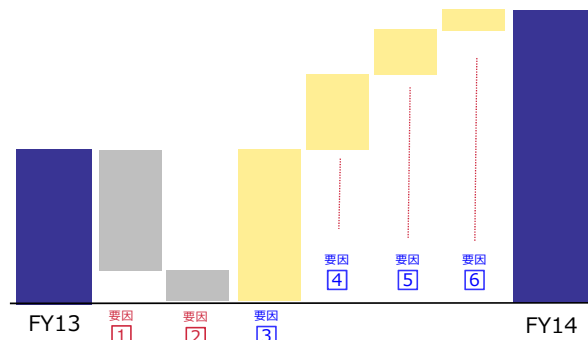
2014年度 営業利益変動要因 (前年度比)

減益要因

- ① 民生用カメラ市場の縮小に伴う販売台数の減少
- ② 構造改革費用の増加

増益要因

- ③ オペレーション効率化による固定費等経費の減少
- ④ 高付加価値シフトによる製品ミックス
- ⑤ 為替の影響^{*1}
- ⑥ 特殊要因



民生用カメラ市場縮小に対し、オペレーションの効率化による固定費等の削減と高付加価値シフトが奏功し、大幅に収益性が改善

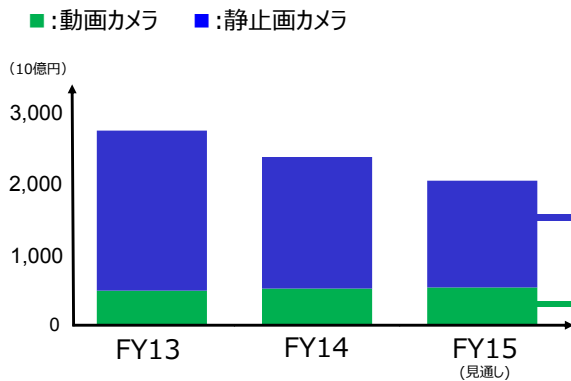
*1: 2014年度実績における通貨別売上高及びコストの金額を元に為替変動による前年度比影響額を試算

Sony IR Day 2015 | 35

2015年度の市場見通し

イメージング・プロダクツ&ソリューション分野

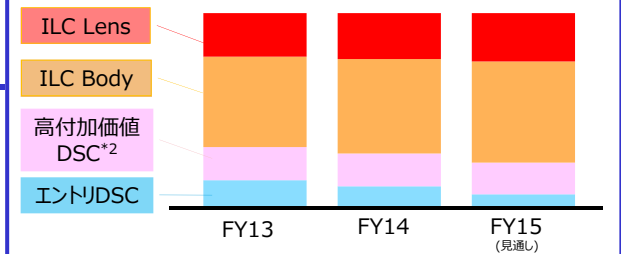
主要カメラカテゴリ*1金額市場推移



*1 主要カメラカテゴリ
 静止画：コンパクトデジタルスチルカメラ(DSC)、レンズ交換式カメラ(ILC)、交換レンズ
 動画：民生用ビデオカメラ (POV+コンベンショナル)、業務用ビデオカメラ (プロフェッショナル用+プロシューマ用)

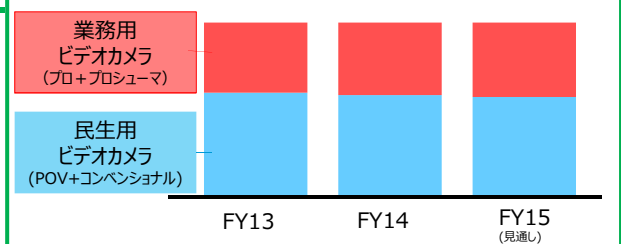
(ソニー調べ)

静止画カメラ：カテゴリ別 金額市場構成比



*2 高付加価値DSC=1/1.7型以上 or 光学ズーム 20倍以上のDSC

動画カメラ：カテゴリ別 金額市場構成比



Sony IR Day 2015 | 36

2015年度 基本方針・業績見通し

イメージング・プロダクツ&ソリューション分野

基本方針

継続的なオペレーションの効率化と高付加価値シフトにより高収益性を維持・継続
 特にプロフェッショナル・ソリューション事業の更なる収益性の向上を目指し、個々の事業の改革に着手

2015年度 営業利益変動要因 (前年度比)

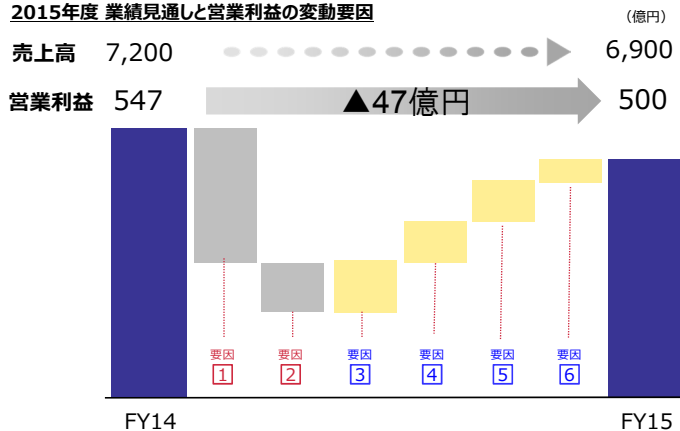
減益要因

- 民生用カメラ市場の縮小に伴う販売台数の減少
- 特殊要因

増益要因

- オペレーション効率化による固定費等経費の減少
- 高付加価値シフトによる製品ミックスの改善
- 構造改革費用の減少
- 為替の影響*1

2015年度 業績見通しと営業利益の変動要因



* 各分野の2015年度の見通しは1米ドル118円前後、1ユーロ136円前後で作成

*1: 2015年度事業計画における通貨別売上高及びコストの金額を元に為替変動による前年度比影響額を試算

Sony IR Day 2015 | 37

2015年度の重点施策

イメージング・プロダクツ&ソリューション分野

各事業の個別施策 (前回IR Dayで説明)

プロフェッショナル・ソリューション事業

- ① プロ用カメラのラインナップ強化
- ② カメラ以外の映像制作向け商材の強化
- ③ レーザー光源プロジェクターの事業強化
- ④ イメージング技術を最大限に活用した
医療市場向け商材の拡大

デジタルイメージング事業

- ① αレンズ交換式カメラ事業の強化
- ② α交換レンズ事業の拡大
- ③ DSC/CAM高付加価値シフト
- ④ カメラ技術のB2B市場への応用
- ⑤ オペレーション効率の追求

IP&Sセクター融合施策 (本日本話の内容)

- ① 業務用ハイエンド技術の
民生用展開
- ② αマウントを軸とした強い商品
のエコシステム確立
- ③ オペレーショナル・ベストプラクティス
のセクター内横串展開

Sony IR Day 2015 | 38

施策①:業務用ハイエンド技術の民生用展開

イメージング・プロダクツ&ソリューション分野

幅広いお客様に価値を提供 - 「4K」「ハイレームレート」「広色域」



Sony IR Day 2015 | 39

施策①:業務用ハイエンド技術の民生用展開

イメージング・プロダクツ&ソリューション分野

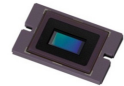
プロ用カメラの最高峰技術が、デジタルイメージングの世界を牽引

世界初 2/3型3板式4Kイメージセンサー搭載
動きの速いスポーツ中継に最適な4K/HDシステムカメラ「HDC-4300」

4K



- 最先端技術を集約した4Kイメージセンサーで幅広い色域 (ITU-R BT.2020) に対応
- ハイフレームレート撮影による高精細HD8倍速スーパースローモーション映像を実現
- 既存B4マウントレンズをダイレクト装着可能 高倍率大型レンズにも対応



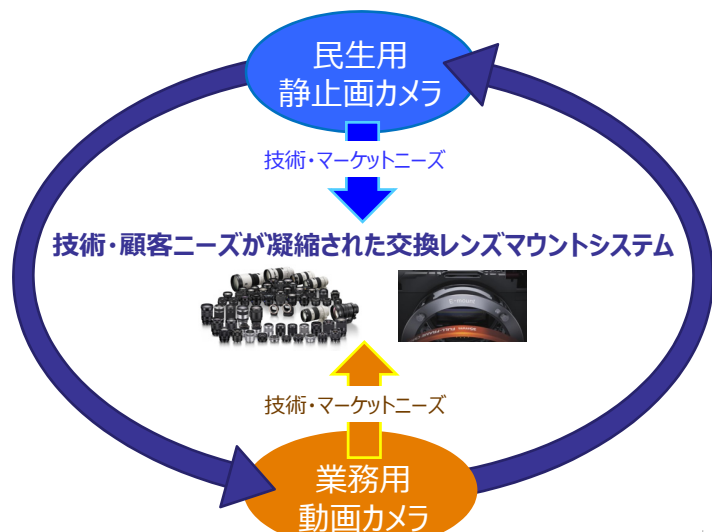
Sony IR Day 2015 | 40

施策② : αマウントを軸とした強い商品のエコシステム確立

イメージング・プロダクツ&ソリューション分野

αマウントを静止画・動画/業務用・民生用へと拡張するシステムとして強化

α Mount System



Sony IR Day 2015 | 41

施策②：αマウントを軸とした強い商品のエコシステム確立

イメージング・プロダクト&ソリューション分野

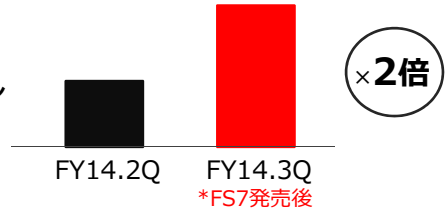
2014年度に融合商品第一弾を発売、市場の反響は上々



PXW-FS7

- ・ Super 35mm 単板CMOSセンサー
- ・ 4K/60P 本体記録
- ・ 180fpsハイフレームレート撮影
- ・ 撮影シーンに合わせたフレキシブルスタイルデザイン
- ・ 動画用 αマウントシステム レンズ
"FE PZ 28-135mm F4 G OSS"

ソニー製大判動画製品*1出荷台数



*1: マイクロフォーサーズ以上の大判イメージャーサイズを搭載したシネマ等向けの業務用カメラ



α7s

- ・ 夜でも明るい超高感度 ISO409,600
- ・ 画素数 12M
- ・ 4K動画出力

欧米購入者のプロ/プロシューマ比率



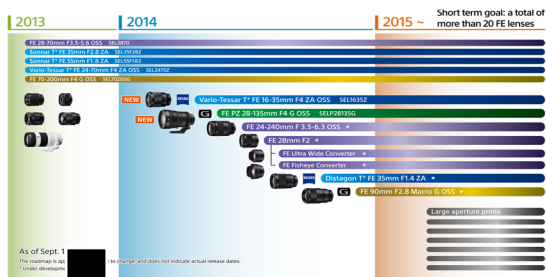
(ソニー調べ)

施策②：αマウントを軸とした強い商品のエコシステム確立

イメージング・プロダクト&ソリューション分野

αマウントのポテンシャルを最大限に引き出す先端フルフレームレンズ群を拡充・強化

フルフレームEマウント(FE)レンズ開発ロードマップ



2015年5月
(現在)

~2016年度
初頭

FE レンズ計

12本

20本以上

αマウントレンズ計

63本

70本以上

他社にない最先端テクノロジーを搭載したレンズ

超高解像

超高解像静止画
4 K 動画対応

高速・静音

オートフォーカス、連写、ズーム

小型・軽量

ボディサイズに対応した
小型・軽量レンズ

施策③：オペレーショナル・ベストプラクティスのセクター内横串展開

イメージング・プロダクツ&ソリューション分野

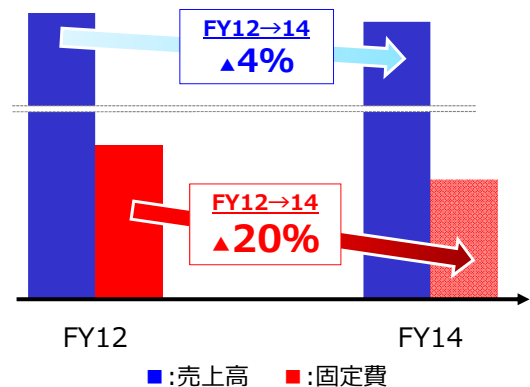
デジタルイメージング事業で培った高いオペレーション能力をセクター全体に展開し、採算構造を改善

具体的な施策

- ・セクター横断的な設計開発のプラットフォーム化
- ・ビジネス状況に応じたリーンな製造固定費マネジメント
- ・全社戦略と連動した販売機能改革の促進

“創・造・販”の一気通貫によるセクター全体の効率的な設計/製造/販売オペレーションの確立

デジタルイメージング・プロダクツ事業の売上高/固定費の推移



Sony IR Day 2015 | 44

まとめ

イメージング・プロダクツ&ソリューション分野

■ 2015年度 業績見通し

■ 売上高： 6,900億円 ■ 営業利益率： 7%

■ 2015年度 基本方針

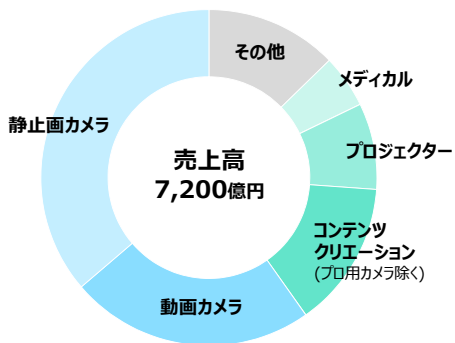
継続的なオペレーションの効率化と高付加価値シフトにより高収益性を維持・継続
特にプロフェッショナル・ソリューション事業の更なる収益性の向上を目指し、個々の事業の改革に着手

Sony IR Day 2015 | 45

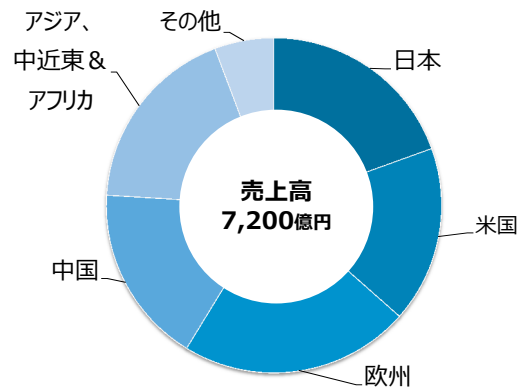
参考資料

IP&S分野 主要カテゴリー別・地域別売上構成比

■ 2014年度 主要カテゴリー別売上構成比



■ 2014年度 地域別売上構成比

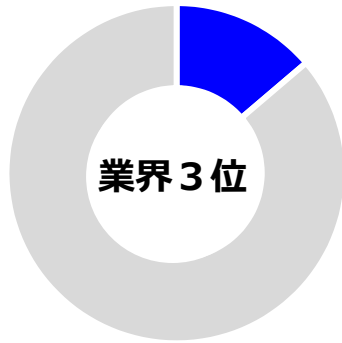


IP&S分野 主要製品別のシェア (金額ベース)

イメージング・プロダクト&ソリューション分野

■ 2014年度 静止画カメラ市場

市場規模：1兆8,500億円

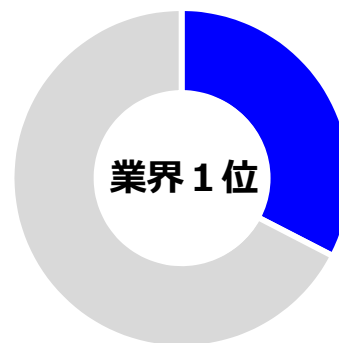


ILC(交換レンズ含む)：11% (業界3位)
(内ミラーレス型ILC：約6割/業界1位)

DSC：20% (業界2位)
(内高付加価値DSC^{*1}：3割超/業界1位)

■ 2014年度 動画カメラ市場

市場規模：5,200億円



動画カメラの定義

民生用ビデオカメラ (POV+コンベンショナル)
業務用ビデオカメラ (プロ用+プロシューマー用) の合算

(ソニー調べ)

*1. 高付加価値DSC=1/1.7型以上 or 光学ズーム 20倍以上のDSC

Sony IR Day 2015 | 48

将来に関する記述等についてのご注意

このスライドに記載されている、ソニーの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績、出来事・状況に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「想定」、「予測」、「予想」、「目的」、「意図」、「可能性」やその類義語を用いたものには限定されません。口頭又は書面による見通し情報は、広く一般に開示される他の媒体にも度々含まれる可能性があります。これらの情報は、現在入手可能な情報から得られたソニーの経営陣の仮定、決定ならびに判断にもとづいています。実際の業績は、多くの重要なリスクや不確実な要素により、これら業績見通しと大きく異なる結果となりうるため、これら業績見通しのみで全面的に依拠することは控えるようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にソニーが将来の見通しを見直しを改訂するとは限りません。ソニーはそのような義務を負いません。実際の業績に影響を与えるリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます。

- (1) ソニーの事業領域を取り巻くグローバルな経済情勢、特に消費動向
 - (2) 為替レート、特にソニーが極めて大きな売上、生産コスト、又は資産・負債を有する米ドル、ユーロ又はその他の通貨と円との為替レート
 - (3) 激しい価格競争、継続的な新製品や新サービスの導入、急速な技術革新、ならびに主観的で変わりやすい顧客嗜好などを特徴とする激しい市場競争の中で、十分なコスト削減を達成しつつ顧客に受け入れられる製品やサービス (テレビ、ゲーム事業のプラットフォーム、ならびにスマートフォンを含む) をソニーが設計・開発し続けていく能力
 - (4) 技術開発や生産能力増強のために行う多額の投資を回収できる能力及びその時期
 - (5) 市場環境が変化の中でソニーが事業構造の改革・移行を成功させられること
 - (6) ソニーが金融を除く全分野でハードウェア、ソフトウェア及びコンテンツの融合戦略を成功させられること、インターネットやその他の技術開発を考慮に入れた販売戦略を立案し遂行できること
 - (7) ソニーが継続的に、研究開発に十分な資源を投入し、設備投資については特にエレクトロニクス事業において投資の優先順位を正しくつけて行うことができること
 - (8) ソニーが製品品質を維持できること
 - (9) ソニーと他社との買収、合併、その他戦略的出資の成否を含む (ただし必ずしもこれらに限定されない) ソニーの戦略及びその実行の効果
 - (10) 国際金融市場における深刻かつ不安定な混乱状況や格付けの低下
 - (11) ソニーが、需要を予測し、適切な調達及び在庫管理ができること
 - (12) 係争中又は将来発生しうる法的手続き又は行政手続きの結果
 - (13) 生命保険など金融商品における顧客需要の変化、及び金融分野における適切なアセット・ライアビリティ・マネージメント遂行の成否
 - (14) (市場の変動又はボラティリティを含む) 日本の株式市場における好ましくない状況や動向が金融分野の収入及び営業利益に与える悪影響
 - (15) 事業活動の混乱や財務上の損失の発生などを含むサイバーセキュリティに関するリスクを予測・管理するための取り組み
 - (16) 大規模な災害などに関するリスク
- ただし、業績に不利な影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。